

企画事業「指導者及び指導者を目指す方を対象とした事業」
「青少年教育施設職員研修」

青少年指導者のためのチームマネジメント研修

平成23年2月28日（月）～3月2日（水）
（2泊3日）



I 事業の背景

青少年教育施設において、指定管理者制度が導入され、管理・運営が民間に委ねられているケースが増えている。さらに、国立や公立の施設において事業仕分けが進められ、その存在価値が問われ、同時に施設に関わる職員の高いレベルの専門性が要求されている。

そこで、青少年教育施設職員または青少年教育指導者の資質向上を図り、施設や関係団体の事業推進の活性化につながる研修会の企画が必要であると考えた。

II 事業の概要

1 趣旨

青少年教育施設には、質の高い成果が常に求められる。職員一人一人の資質向上はもちろん、職員が互いに協調し、相乗効果を生み出す組織づくりが求められる。本研修では、企画のプロジェクトを進めるためのチームマネジメントに必要な実践的スキルの習得をねらいとした。

2 参加対象

青少年教育施設職員、青少年教育関係者、本研修に興味・関心のある者 20名程度

3 参加状況

36名（男性：28名 女性：8名）

	人数	ブ ロ ッ ク 別 （全青少協による分類）						
		北海道	東北	関東 甲信越	東海 北陸	近畿	中国 四国	九州
国立教育施設	12	0	1	3	1	2	1	4
公立教育施設	17	0	0	4	6	3	3	1
青少年団体	2	0	0	2	0	0	0	0
教育委員会	2	0	1	1	0	0	0	0
学 生	2	0	0	2	0	0	0	0
そ の 他	1	0	0	1	0	0	0	0
合 計	36	0	2	13	7	5	4	5

4 企画のポイント

職場の地位による組織マネジメントに焦点を当てるのではなく、「企画チームの構成員がリーダーとフォロアーという役割を担い、マネジメントを意識した取り組みができるようにしたい」という思いから事業の企画を進めた。課題を見つけるための現状分析の手段や企画のプロセスなどの理論を研修し、参加者がすぐに施設に還元できるようにするため、グループワークを多く取り入れて活発な意見交換を行い、それぞれの施設で実施しようとする企画会議の模擬体験ができるようにした。

5 主な研修内容

- (1) チームマネジメントとは
チームマネジメントの意味、リーダーの役割
- (2) 課題を達成するスキル
課題分析の手法、企画の立案
- (3) やる気を引き出すスキル
コミュニケーション、コーチング



Ⅲ 事業ノウハウ

1 広報

施設職員を主たる対象としたため、開催要項や募集チラシは全国青少年教育施設協議会加盟施設と県及び政令都市の教育委員会に送付し、その他はHPによる発信にとどめた。この結果、少ない発信で多くの参加を得られたといえる。

2 注目の題材

参加が多く得られた背景には、「もしドラ」によるマネジメントの浸透であると推察される。この爆発的な売れ行きは、社会全体が共通して欲している題材であることを意味している。教育施設においてもマネジメントは不可欠なスキルと考え、マネジメントをテーマにした企画とした。

今後も社会のニーズに応えるため、アンテナを高くし、発想や視点を変えた企画を進められるようにしたい。

3 プログラム

2泊3日、18時間に及ぶ内容を一人の講師に委ねるにあたり、何を身につけたいかを整理したうえで講師と研修内容を打ち合わせた。講師の講習スタイルを尊重しつつ、習得したいコンテンツを適切な演習を交え、参加者が実践できるところまで内容を掘り下げていただいた。

講師にすべてお任せのパッケージプランにせず、事前調査による参加者のニーズを伝え、主催者が意図した研修内容になるように注文をしたことが実りある研修につながったのではないかと考えられる。

4 参加者の声

「充実した研修」という評価をたくさんいただいた。
以下は、具体的な記述回答の抜粋である。

- ・グループワークが多く、身に付くプログラムだった。
- ・職場の職員の役割について考え直す、良いきっかけとなりました。
- ・職場の他の人にも参加をしてもらいたい内容です。



担当：企画指導専門職 鈴木 眞成